個の確立と他との協調　学校法人 郡山開成学園報　尊敬・責任・自由

開成の杜

第73号●2007年6月1日●郡山女子大学大学院●郡山女子大学●郡山女子大学短期大学部●郡山女子大学附属高等学校●郡山女子大学附属幼稚園
●発行所／学校法人郡山開成学園〒963-8503 郡山市開成3丁目25番2号 ☎024(932)4848(代) http://www.koriyama-kgc.ac.jp●発行人／学園長 関口富左

さぁ、食栄の実践を　（撮影　山口郁生）

続編『開成の杜』

学園長 関口富左

待ちに待った花も、やがて開花。そしていつしか散り、地上を飾り終えると、若芽がここぞともの言い、緑の世界を生み出す……。時は、なんと絶妙なことか。しかも人々に新たな想いを誘う。例年のことながら、新鮮な想いの中で、今日を凝視める。

『開成の杜』も、総集編出版の大業を終えて一休みであるやと思いもしたが、続いて第73号の出版となった。

天空と休みなく対話している神社の鬱蒼たる杜は、清澄な天空と静けさを以て、わが学園の教育環境醸成を図っている。われながら良き環境を得られたことよと、感謝である。かつてこの地は、「馬・賀共進会」の広場で、南北に長い「馬小屋」が連立していた。思えばこの環境は、六十余年前の状況であった。今は、白亜の学舎が爽快な構築を以て現出され、清新ともいえる雰囲気を以て、有為な子女の学びの園となる。学生達は、快適な校舎や施設をわがものとして学び、仲間との友愛を深めている。これらは、六十余年の経過の所為である。

62年館屋上に眼を移せば、菜園は今年も新たな播種によって、いささかの緑葉の芽が陽をうけ始めている。やがて特殊な研究が始まることのようである。

更にまた、記念講堂東南角の外壁に、季節の花籠が式典時に祝意を表して、華やかな雰囲気を醸すなどして美しい。「そんなところにお金をかけるのは惜しい」と、若い教員に言われはしたが、こんな方法もあると、祝意の在り方として続けている。

学園は六十年も過ぎると、互いに自分の仕事上のこと以外には知ることも少ないし、知ろうとする時も少ない。心を新たにする思いに、建物も物言いたいであろう……。

70号も続いたこの『開成の杜』総集編を読むと、忘れていた過去の事々が、新鮮な想いとなって蘇って、新たな事柄へと続いて再認される。

五月の空を凝視めると、えもいわれぬ親しみと安らかさを覚え、また、その愛惜にも心ひかれ、離れ難い想いに浸る。学園は単に校舎だけの構成であれば、様式美の一つの明るさを感ずることであろうか。背景である杜は、騒然たる国道の轟音を防いだ上、神苑でもあるので、自らそのさまに心落ち着きを持ちうるのであろう。

それにつけても、杜のもつ深淵さは、見る時に応じて新たな心の在り方を知らされる。時の経過は事柄の意味を異にしては対応し、新たな思いが生じるなど、見逃せない。

継続『開成の杜』編集の労を謝し、過去と現在と、更に今後との連携とを以て、本学園教育の「語り部」となりつつ、教育の重要性を伝えるであろう。

本紙は、さらなる学園教育の計画への意欲を刺激し、そこに新たな創造への道が展開されよう。

"時の変化と思いは、人の新たな発想を生む"

（H19・5・10記）

創立六十一周年 全学あげて節目を祝う

61周年の喜びを述べる学園長

学校法人郡山開成学園は六十一周年を迎え四月二十二日、この良き日を祝った。

記念式典は午前が附属高校の部、午後が大学・短大の部と分かれたが二部とも同一内容で進行した。

初めに記念式典歌を全員で歌った。あと園口富左学園長が講話、六十一年の成果は学園に集いし者の精進と勤勉によるものであり日々の努力に敬意を表したいと述べた。さらに「建学の精神を忘れず、学園教育の充実発展を図り、人間形成への努力を心に留め置くよう」と学生、生徒の精一杯の対応に期待を込めた。

続いて園口修理事長が挨拶し、「先輩が築き上げてきた六十一年を無にすることなく、引き続き自己研鑽を積まれ、かつさらなる充実を目指しましょう」と述べた。

この後、学園五十周年に植樹した檜と杉の成長ぶりを現地鞍手山（熱海町）、高士山（長沼町）の「開成の杜」と五十五周年に植えた遊々の杜のその後を視察した結果を、高校の部では福永果聡さんが、大学の部では千葉美那さんが報告した。鞍手山と高士山では高さ五mを超えてたくましく、美しく成長した様を説明、「毎日の積み重ねが大成につながることを心に留め、私たちも大きく美しく成長することを誓います」と締め括った。

各種表彰のあと教職員全員が壇上に並び若者の前途に期待をこめて若者賛歌「吾子よ」を歌い上げると、学生・生徒が応答歌「青春の確かさを今」を合唱し教職員と学生生徒が心を合わせた。

教職員（大学）による大合唱

幼稚園も学園誕生日を祝う

附属幼稚園では二十日、創立六十一周年を祝った。園口富左園長が「郡山開成学園は二十二日に六十一歳の誕生日を迎えます。皆でお祝いしましょう」と述べ、教育目標の「よくみる よくきく よくかんがえて」を言いましょうと皆で声を合わせた。

そして「むすんでひらいて」を手振りを加えながら歌い、つどいを終えた。園児たちは式後にお祝いの"紅白饅頭"をいただいて大喜びだった。

「むすんでひらいて」を元気よく歌う園児たち

永年勤続者を表彰

式典では永年勤続者の表彰があり、高校の部一名、大学の部五名、事務局四名に園口学園長から表彰状と記念品が贈られた。

表彰者は次のとおり。（敬称略）

［勤続四十年］▲大学／鈴木利治▲短大／石村由美子▲事務局／三瓶千枝・伊東古子

［勤続三十年］▲短大／草野葉子

［勤続二十年］▲高校／伊藤清和

表彰者（高校）

▲事務局／加瀬　洋

［勤続十年］▲短大／知野　愛・阿部優子▲事務局／高橋　一

表彰者（大学・事務局）

裏磐梯の自然に触れて宿泊研修

大学と短期大学ではこの春入学した学生に対する学外オリエンテーションを四月二十四日から二日間、裏磐梯のホテルで実施した。新入生五百五十八名が三班に分かれ研修した。開講式では、学園六十一周年式典を記録した映像を鑑賞し、学園の歴史に理解を深めた。この後、各学科、専攻ごとに分かれてそれぞれの科の特色に基づいた研修を行った。また、夕食やその後の懇談で教師と学生が相互理解と親睦を図った。

開会式で小池志郎学務部長の挨拶を聞く

創立六十一周年記念 平成十九年度第一回教養講座

科学は変わる

講師 国際基督教大学大学院教授 村上陽一郎氏

科学は我々の生命を左右すると述べる村上氏

平成十九年度第一回教養講座が四月二十二日、創立六十一周年の式典に続いて開催された。講師は国際基督教大学大学院教授村上陽一郎氏。演題は「科学は変わる」。

講演では「日本は科学技術基本法が制定されてから、科学技術という言い方が定着した。しかし、私は科学と技術の間に黒い点を入れ、科学と技術が必ずしも同じものでないことを忘れないようにしている」と前置きして本題に入った。

「科学と技術は違った出発点を持っている。技術は人類の出現から存在していた。技術者は一子相伝。昔の技術は親から子へと伝承され、外へ漏れることはなかった。

十七世紀に活躍したニュートンは科学者ではなかった。ヨーロッパやアメリカの大学では、一八七五年まで理学部は存在しなかった。科学者が誕生したのは十九世紀で、自然科学という領域が明確な形となった。日本では明治十年に技術を学ぶ学校が誕生した。誰でも学ぶことができるようになった。

私は科学者とはと聞かれたら『論文を書く人』と言います。科学者は自分で知識を創り出す。それを論文という形で蓄積する。その科学研究の成果は仲間内で活用され流通した。つまり科学者のためにある『自己完結的』と言える。ところが、事態は二十世紀に入って変わり始めた。産業がクライアントとなり、科学者は企業に雇われた。依頼主の意を受けて開発に務めた結果、数々の製品が生まれた。例えばナイロン。わずか七十二年前のことだ。そして大量殺戮兵器として『核兵器』の研究開発が進められた。原子核の研究者たちが、国家の使命を受け、協力して『核兵器』を完成させた。つまり、我々の生命を科学が左右することになってしまった。科学は変わる。科学の影響に無関心ではいられない。文系を必ずしも人も科学技術リテラシーに理解を持ち、理工系に進む人は自分たちの研究が我々の『生』を支配する力を持っているのだということを理解した上で将来、世の中に出た時、社会リテラシーを自分の中に育てるよう努力してほしい」とくくり、若人へのメッセージとした。

第二回 郡山女子大学 市民フォーラム

●身近な食を考える●

本学食物栄養学科が中心となって企画運営する「食」の市民フォーラムが三月十日、本学芸術館の大教室で開催された。

食に関する大学の研究を地域へ開放するもので二回目となる。聴講者は一般市民ら約百五十名。

宮城大学教授鈴木建夫農学博士は「国民の疲衰は食べ方による」と題して「日本を活性化するのは食であり、その食べ方を知ることこそ元気につながる」と講演した。

郡山女子大学教授鈴木里子管理栄養士は「食育維新」と題して知育、体育よりも食育が一番大切であると述べ、いまこそ"ご一新なり"と食育推進を強調した。

元独立法人国立健康・栄養研究所の平原文子農学博士は「氾濫する健康・食事情の選択と活用」と題して情報の見方、聴き方を教示。聴講者は熱心にメモを取り、身近な"食"を学んだ。

食への理解を深めた市民フォーラム

平成二十年度 募集要項決まる

大学・短大

本大学と短大の平成二十年度入学者選抜要項が決まり、資料希望者や進学相談会等で配布している。募集人員や選抜方法は従来通り。以下抜粋。

【募集定員】

大学院・人間生活研究科
修士課程　十名（昼夜開講制を含む）
博士課程　三名

大学・家政学部
人間生活学科　五十名
（生活総合コース・建築デザインコース二十名、福祉コース二十名）
編入学（三年次）十名
食物栄養学科　八十名
編入学（三年次）十名

短期大学部
家政科福祉情報専攻　七十名
家政科食物栄養専攻　百二十名
幼児教育学科　百五十名
生活芸術科　三十名
音楽科　五十名
文化学科　五十名
専攻科文化学専攻　二十名

【選抜方法】

○推薦生
特待生・推薦生（指定校・公募）

○特別生
専門・総合学科・専修校・社会人・留学生・帰国子女等

○高大連携生
郡山女子大学附属高等学校生徒

○AO生（自己推薦）

○一般生
大学入試センター試験併用可

【願書受付】大学・短大共通
AO生日程
エントリー受付①7／23～9／7
②9／10～10／5
③12／10～1／17
④1／22～2／8
⑤2／12～2／27
指定校・公募　受付
一期　10／10～10～23
二期　11／12～11／20
一般生　受付
一期　1／15～1～25
二期　2／14～2／27

【選抜日程】

要項に記載。確認の上応募するよう。

（入学事務部）

「社会福祉士受験」の「介護福祉士」の資格取得可能に

大学　人間生活学科

人間生活学科福祉コースでは、「社会福祉士受験資格」と「介護福祉士」に係わる開講科目が認可され、新たにそれらの資格が修得できることになった。

「社会福祉士課程」では個人の介護と集団および地域を対象とした援助方法を学び、保健、医療、福祉など多岐にわたる相談に対し適正に助言、指導ができる人材を養成する。

「介護福祉士」は質の高い介護知識、技術を身に付けることを目標に在宅及び施設介護に対応できる理論と実践の教育を受ける。それは高齢者・障害者施設や医療機関等の施設及び、家庭で総合的、専門的能力をもって介護、支援できるプロを目指す。

「大学・食物栄養学科で「栄養教諭」資格取得可能

食物栄養学科では、家庭科教諭のほか栄養教諭一種免許状取得が可能となった。

就職率全学で九五・五%

本学では就職支援について就職部とアドバイザー教員が連携をとり学生の進路希望や能力適正を適格に把握しながら、助言・指導に務めている。その結果、平成十八年度卒業生の就職率は大学九六%（前年度八五%）、短大九五%（前年度同）となった。特に大学・食物栄養学科と短大・食物栄養専攻は共に一〇〇%を達成した。次いで短大保育科九七%、同福祉情報専攻、同文化学科が九四%と好調であった。

（就職部）

ゼロエミッション活動で最優秀賞

本学園は平成八年より環境対策として①環境負荷の低減②環境啓蒙活動③リサイクル活動を進め、ゼロエミッション（廃棄物ゼロ）の実現に向けた運動を展開している。十八年度には生ゴミ処理機を導入、調理実習等で出る生ゴミを堆肥にして屋上菜園で利用した。

その循環利用が評価され、福島県の「活動提案コンクール」で学校・団体部門で二度目の最優秀賞を受賞した。

杜のなかで　コラム

地球温暖化に関する国連機関（IPCC）の報告書

最近上映された、元米国副大統領アル・ゴア氏主演の映画「不都合な真実」を見た人もいたと思う。この映画は人類最大の危機といわれる地球温暖化をテーマとしたものであるが、豊富な科学的データを駆使して温暖化の真相を説き明かす氏の説得力ある話は、事の重大性を深く認識させるものであった。また、ゴア氏は、すでに、同名の書を出版している。

折しも、世界の四百五十人以上の科学者から構成される国連機関「気候変動に関する政府間パネル」（IPCC）の第三作業部会が、五月四日、地球温暖化を緩和させる方法に関する報告書をまとめた。既報のように、すでに、温暖化の原因に関する科学的知見をまとめた第一作業部会は二月、温暖化の原因は人間活動の可能性がかなり高い、百年後の気温は二十世紀後半より一・八～四度上昇するという報告書をまとめた。また、温暖化の影響を検討した第二作業部会は、四月、温暖化の影響は極地から赤道域まで及び二十世紀末の平均気温と比べ、気温上昇が一度未満でも数億人が深刻な水不足に直面する、二〇五〇年代に一・五度の上昇と仮定すると最大三〇%の種で絶滅のリスクが増加する、八〇年代に二度高くなると世界の沿岸湿地の約三〇%が消失する、などの影響を指摘した。

今回の第三作業部会報告書で注目されることの一つは、温室効果ガス排出削減への道筋とコストを示したことである。具体的に、影響の少ない二度程度に気温上昇を抑えるためには、二〇二〇年までに世界の温室効果ガスの排出量を減少に転じさせ、二〇五〇年には二〇〇〇年より半減させる必要がある、そのコストは二〇五〇年時点で世界のGDP（二〇〇五年は約五千三百兆円）の五・五%と算定した。

温室効果ガスの約九〇%を占める二酸化炭素（CO_2）は今でも増え続けている。石油や石炭、天然ガスを大量消費する工業化社会と便利な生活を方向転換できるか、これが対策の鍵である。そのためにも、先ず、温暖化に対する関心と認識の輪を広げることが大切である。映画「不都合な真実」は、この輪を世界の国々に広げることに役立つ、ことであろうと思う。（学園報編集委員　影山　優）

世界の国々で海外研修旅行

「新たな発見に感動」

人間生活学科　高橋　愛

女性市民社会連合にて

私は、海外研修でパリに行ってきました。滞在期間は四日間でしたが、高齢者福祉施設やランジス総合市場、女性市民社会連合などにも訪問させていただき、多くの場所を訪れることができました。

この研修では、日本の生活の質の高さやサービスの充実などを感じることもでき、日本が良い国だと改めて感じることができました。また、様々なものを見たり聞いたりすることで新たな発見もあり、多くのことを学ぶことができたと思います。とても楽しく、貴重な良い経験になりました。

「シンガポールで学んだこと」

食物栄養学科　伊藤　真由子

ラッフルズホテルにて。パティシェの手元を凝視する学生

シンガポールは、さまざまな人種が集まっているので宗教の違いや食文化の違いによって食べる物が異なります。食事は中華やインド、マレー系などさまざまな食事を食べることができとても勉強になりました。

ラッフルズホテル研修では、ホテルのパティシェの本格的なお菓子作りの実演を見て学ぶことができました。三種のお菓子を実際に食べることができてとても充実した時間を過ごすことができました。

さて、シンガポールは気候が暖かく日本にはない珍しいフルーツがどこにでも売っていたので、その国ならではの食生活を実感することができました。また、とてもきれいな国で、日本とは違う環境を体感。シンボルであるマーライオンの神話も知ることができました。三泊五日の研修でしたが、異文化を知る有意義な旅行でした。

「ヨーロッパの香りの中で…」

音楽科　佐藤　成

ベルヴェデーレ宮殿にて

三月二十日からのオーストリア研修。最初に訪れたウィーンでは、国立オペラ座でのオペラ鑑賞やシェーンブルン宮殿を始めとして歴史的な宮殿や教会を見ることができました。街並みも美しく、おとぎの国のように思われました。

日本でもオペラ鑑賞はできますが、周囲の観客の熱気や音楽を楽しむ姿勢、よく響く大きなホール、オペラ座の美しさという環境の中での鑑賞はとても圧倒され、演奏後の観客総立ちの拍手は演奏の素晴らしさを物語っていました。

日常からも芸術的なものを感じとることができ、建物の細部まで妥協しないことが分かります。音楽もまた、細部までこだわり、作曲者も観客も妥協しないからこそ時代を経た今でも皆に愛され、親しまれる音楽が存在しているのだと思いました。

今回の研修で音楽はもちろん、素晴らしい建築物や出会った人々の温かな人柄に接し、今後の私たちの人生に大きな課題、そして宝物を得たと言っても過言ではありません。

「近代化へ急ピッチの中国」

文化学科　増井　文夏

高層ビルに囲まれた上海での一行

私たちの研修は中国は北京、西安、上海への五泊六日の旅でした。

北京では、旅行のメインとも言える万里の長城や天安門広場、故宮を見学し、王府井での買物や伝統の茶芸と舞踊を楽しみました。西安では兵馬俑や大雁塔、華清池を見学。上海博物館を見学。そしてナイトクルーズでの夜景。

中国は今、北京五輪に向けて至るところで工事が行われ、高層ビルラッシュです。が、一方では歴史を感じさせる建物が保存管理されていました。この旅行で日本にないスケールの大きさを直接見聞し、中国文化を肌身に感じたことは、異文化間での相互理解の重要性を考えるのに有意義な機会であったと思います。

入学

開成の杜に新しい風
建学の精神を胸に新入生が集う

大学院・大学・短期大学部

郡山女子大学大学院第十六回、大学部第四十一回、短期大学部専攻科第八回の入学式が四月十日、建学記念講堂対面式大ホールで行われた。郡山開成学園オーケストラによる奏楽のあと式典に入り、大学院修士課程二名、大学百十一名、短期大学部四百四十五名、同専攻科二名が呼名され、関口富左学長が全員の入学を許可した。同時に大学三年への編入生十二名の入学も許可された。

地域社会のよき存在であれ

関口学長は告辞の中で、学園創立六十一周年を迎える中で改めて建学の精神「尊敬・責任・自由」の理念を説き、心に留めおくよう訓示した。そして、「品位を保ち、身も心も美しく磨き、地域社会のよき存在になるべく努力しなさい」と大学生としての自覚を促した。

来賓では首相補佐官根本匠衆議院議員、金澤裕学園家族会会長、安斉悦子郡山女子大学短期大学部同窓会会長が挨拶し入学を祝った。

続いて附属高校三年の稲田優子さん、附属幼稚園児の山本叔菜さん、太田峻也さんが「幼稚園にも遊びに来てください」と歓迎した。また、在校生の吉田沙織さん（短期大学部文化学科二年）は学園生活を紹介し、青春謳歌を助言した。

輝いの言葉を述べる芝田理香さん

そして大学院の芝田理香さん、大学人間生活学科の青木里沙さんが入学者を代表して「学則を守り、学問探究に励みます」と誓いの言葉を述べた。

附属高等学校

例年になく早い春の訪れに、せせらぎのこみちの桜もつぼみをほころばせ始めた四月七日、建学記念講堂に二百八十四名の新入生を迎え第五十一回附属高等学校入学式が盛大に挙行された。

真新しい制服に美しく身を包んだ新入生は緊張と期待に瞳を輝かせ、一人ひとり呼名されると元気のよい返事とともに、関口富左校長から入学の許可をいただいた。参列の保護者や在校生にも新入生の新たな出発への緊張が伝わり、会場は華やいだ中にも厳粛な空気が漂った。

学校長告辞は、本学の建学の精神である「尊敬・責任・自由」のもと高校の三目標を体現するよう努力するべきこと、そして、自己の善さを発見し、健康に十分留意しながら充実した学校生活をおくりなさいという新入生への温かい励ましの言葉で結ばれた。

その後、来賓の学園家族会会長金澤裕氏、高校同窓会会長佐藤弘子氏、家族会OB会会長渕辺陣弘氏、大学院・大学・短大代表松本知子さん、附属幼稚園児代表二文字堅健さん、鈴木結乃さんよりの心温まる祝辞に続き、在校生代表稲永杏穂生徒会長が歓迎した。そして新入生を代表して渡邊郁子さんが「誓いの言葉」を述べた。

最後に全員で校歌を高らかに歌い上げ入学式を閉じた。

対面式で花束贈呈

入学式の翌々日、先輩が新入生を歓迎する対面式が行われ、クラス代表に花束を贈り入学を祝った。そして学業に部活動に共に精進することを誓い合った。

保護者と一緒に「誓いの言葉」を述べる渡邊郁子さん

花束を贈って歓迎する先輩

附属幼稚園

桜の花が風にゆれて咲き誇る中、附属幼稚園の第五十三回入園式が四月十一日行われた。初めての幼稚園で先生やお友達と顔を合わせた新入園児六十四名。自分の名前を呼ばれて少し緊張しながらも一人ひとりが大きな声で返事をすることができた。

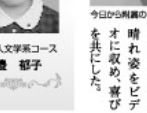
関口富左園長が入園を許可したあと幼稚園の教育目標である「よくみる　よくきく　よくかんがえて」をお話しした。そして年長組さんから「こんにちは」と遊びました。最後に「ごきげんさん　あかるく　てんまでのびよ」と記念のペンダントを首に掛けてもらい大喜びであった。最後に幼稚園のおやくそくを守って、よい子になります」と元気よく答えた。式に付き添ったご両親はわが子の晴れ姿をビデオに収め、喜びを共にした。

今日から幼園の子ども

私が附属高校を志願した理由

食物科
鈴木真由美

私が本校を志願した理由は、将来管理栄養士になることを目標としているからです。その目標を達成するために、本校食物科の基礎や食文化についての知識を学び、調理師免許を取得したいと考えています。さらに、本校大学に進学し管理栄養士になることができたら、人々が喜んでくれる栄養バランスがとれた食事を提供し、食の大切さを伝えることのできるような人になりたいです。

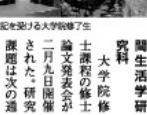


普通科人文学系コース
渡邊　郁子

私が本校を選んだ一番の理由は家庭科の教員を目指しているからです。本校の普通科人文学系コースは二年時にコース選択があり「人間生活系」というものがあります。私はこのコースに進み、基礎知識を身につけ、本大学の人間生活学科に進学することを望んでいます。また、私は小学校の頃から剣道を続けています。高校でも剣道部に入ろうと思っています。高校で剣道をやるからには、レベルの高い本校で、体力・精神力を身につけ心を磨きたいと思ったことも選んだ理由の一つです。

これからは本校の生徒としての自覚と誇りを持ち、目標達成のためにも日々努力したいと思います。

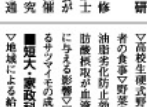
私が郡山女子大学を志願した理由



大学・食物栄養学科
荒　ゆきの

私は、身近な存在である「食」で人の役に立ちたいと考え、食物栄養学科を志願しました。食生活の乱れにより引き起こされる問題や病気のニュースは、日々報じられ、深刻な社会問題となりつつあります。「食」についての様々な専門知識を学び、将来に活かせるよう幅広い視野で物事を見つめ、努力していきたいと思います。

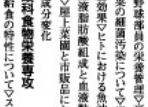
そして、管理栄養士としての仕事は人を対象としています。芸術鑑賞講座や教養講座を通し感性を養い、確かな学問と教養を備えた女性になりたいと思います。



短期大学部・生活芸術科
阿部　仁泰

私は彫刻の勉強がしたいと思い短期大学部生活芸術科を志望しました。本格的に進路を決めたのは高校二年生の夏でした。幼い頃から好きだった仏像に携わる仕事がしたいと考え、芸術面でも様々な活動に取り組んでいる本大学を学びたいと思ったのが始まりです。

二年間という短期間ですが、先生方に指導をいただきながら、自分の目標へ着実に近づいていきたいです。



大学院・修士課程
芝田　理香

卒業研究では、働く女性と少子化をテーマに、日本における働く女性と少子化との関連について多面的に研究しました。大学院では、少子化の問題について国際的視点も踏まえてさらに深く、問題点を明確に探究したいと思います。

今後の進路に活かすことができるよう、研究に精一杯取り組んでいきたいと考えております。

卒業

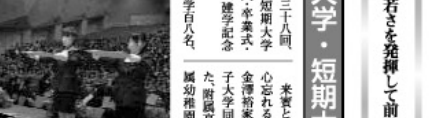
大学院・大学・短期大学部

若さを発揮して前進しなさい　お元気で

大学院第十四回、大学第三十八回、短期大学部第五十六回、短期大学部専攻科第六回の修了式、卒業式、学位記授与が三月十六日、建学記念講堂で行われた。

大学院修士課程二名、大学百八名、短期大学部四百六十名、同専攻科六名の各科総代に関口富左学長から卒業証書および学位記が手渡された。

関口学長は告辞として「本学の建学の精神である『尊敬・責任・自由』を心に留め置き、社会に奉仕しなさい。困った時には『自然は最初に始め て師となり』を思い起し指針としなさい。幸せに向かって前進なさい」と述べ、はなむけとした。



学位記と卒業証書を受ける紹大卒業生総代

来賓として、原正夫郡山市長が「初心忘れるべからず」を贈る言葉とし、金澤裕家族会長、名倉美恵子郡山女子大学同窓会長が前途を祝した。また、附属高校一年の内山知裕さん、附属幼稚園児代表の遠藤紗知歩さんと浅野ジーノさんがお別れの言葉を述べた。

続いて在学生代表の短期大学部音楽科玉川菜穂さんが送辞。これに対して大学院佐原暁子さんと大学・人間生活学科の代表藤久美子さんが惜別の思いを述べ答辞とした。

学園オーケストラが関口先生の指揮で、蛍の光と全員の拍手に送られて慣れ親しんだ講堂を後にした。お元気でご機嫌よう。

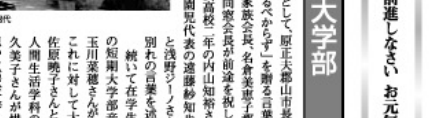
附属高等学校

ひな祭り二月二日、建学記念講堂において附属高等学校の第四十八回卒業証書授与式が挙行された。

普通科・音楽科・美術科・食物科の三百四十八名が晴れの式に臨んだ。担任教諭により、一人ひとりが呼名され、それぞれの科の総代に関口富左校長から卒業証書が授与された。

次いで賞状授与があり、今年度の学園長賞六名、学校長賞十六名、皆勤賞五十九名、精勤賞二十三名に賞状が授与された。

式の前日には日本私立学校振興共済事業団理事長、全国調理師養成施設協会長、特別教育活動功労賞等部活動・生活指導等の功労者四名が表彰された。



皆料総代に卒業証書を手渡された。

学校長告辞の中で、関口富左校長は「建学の精神の中である『尊敬・責任・自由』そして高校の三目標のもとで培ってきたことを糧として、今後社会に出ても、相手の善さを認め仕事に対しても自信を持って対応しなさい」と卒業生を励ました。

来賓の方々の祝辞に続いて在校生の福永果聡さんが送辞を、卒業生を代表して館林明日香さんが学び舎を去る思いを述べ答辞とした。

今年度の卒業生をもって、本校の卒業生総数は二万三千百七十名となった。

附属幼稚園

第五十二回卒園式が三月十九日建学記念講堂小ホールで行われた。関口富左園長は卒園児六十一名に「げんきで　あかるく　てんまでのびよ」と書かれた卒業証書を一人ひとりに手渡した。また、園内に咲いている同じ梅の花束を卒園児代表の小飯田悟志さんに贈られた。

関口園長のお別れの言葉のあと佐藤未来さんが送ることばを、これに対して広瀬未来さんがさようならと答えた。

保護者が見守る中、卒園証書を受け取る園児たち

保護者は、子どもの成長した姿をビデオや写メールに収めていた。

卒業研究発表会

家政学専士の学位記を受ける大学院修了生

■大学院人間生活学研究科　大学院修士課程の修士論文発表会が二月九日開催された。研究課題は次の通り。

マ高校生運動選手における貧血および鉄剤処方の効果

マ地域による給食の特性についてマストレス度と五味の調査の関係についてマ骨とカルシウムマ お茶と健康　女子大学生の清涼飲料水の摂取傾向マ郡山産のなめこ

いたけを利用した食品開発マちちみほうれん草の成分特徴

■短大・保育科　マ子どもとの関わりに焦点化したサイエンスショーの開発　生活における環境行動の変容を視点として　マ乳幼児と母親とのコミュニケーションに関する一考察　パピマッチングを中心に考える　マオペレッタ「森のおくりもの」リズム劇「めぐる季節」人形劇「プレーンの音楽隊」

■短大・文化学科　マ安寿と厨子王伝説と無縁マ始皇帝の死生観　兵馬俑をてがかりに縄文の食についてマモナ・リザのモデルとしてマダラのマリア観が浮上した理由マ死生観の変遷からみる吸血鬼伝説の成り立ち　民間とキリスト教の「迷信」

■大学院人間生活学研究科　マ高校生活式野球部部員の栄養管理マ高齢者の食事マ野菜の組織汚染についてマ炭の油脂劣化防止効果マトロトにおける魚油脂肪酸模取出液脂肪酸組成と血液粘度に与える影響マ麻生薬園と市販品における サッマイモの成分変化

■短大・家政科　食物栄養専攻　マ地域による給食の特性についてマストレス度と五味の調査の関係についてマ骨とカルシウムマ お茶と健康　女子大学生の清涼飲料水の摂取傾向マ郡山産のなめこ

いたけを利用した食品開発マちちみほうれん草の成分特徴

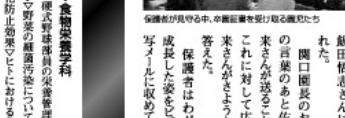
■大学・食物栄養学科　マ高校生運式野球部部員の栄養管理マ高齢者の食事マ野菜の組織汚染についてマ炭の油脂劣化防止効果マトロトにおける魚油脂肪酸模取出液脂肪酸組成と血液粘度に与える影響マ麻生薬園と市販品における サッマイモの成分変化

■短大・家政科　食物栄養専攻　マ地域による給食の特性についてマストレス度と五味の調査の関係についてマ骨とカルシウムマ お茶と健康　女子大学生の清涼飲料水の摂取傾向マ郡山産のなめこ

いたけを利用した食品開発マちちみほうれん草の成分特徴

■短大・保育科　マ子どもとの関わりに焦点化したサイエンスショーの開発　生活における環境行動の変容を視点として　マ乳幼児と母親とのコミュニケーションに関する一考察　パピマッチングを中心に考える　マオペレッタ「森のおくりもの」リズム劇「めぐる季節」人形劇「プレーンの音楽隊」

■短大・文化学科　マ安寿と厨子王伝説と無縁マ始皇帝の死生観　兵馬俑をてがかりに縄文の食についてマモナ・リザのモデルとしてマダラのマリア観が浮上した理由マ死生観の変遷からみる吸血鬼伝説の成り立ち　民間とキリスト教の「迷信」



雑穀化粉飲料の影響マ認知症高齢者のグループホームにおけるケアについてマ福島県内産米利用農産物を用いたナタデココ様産物による食品開発

大学、短大では一月末と二月にかけ各科ごとに発表会を開催した。主な研究課題は次の通り。

■大学・人間生活学科　マ水と人間の生存・生活マ働く女性と少子化マストレスに関する研究を住むことの意味マ近年の住宅における「公や間」に関する研究マ単身女性の収納空間マ高等学校「福祉教育」における実態と今後の課題マ配食サービスの現状と課題マ衣服の色彩との関係マ郡山産の普及と流行マ食育と地産地消

ティールーム

コミュニケーション・フォーラム

里山の魅力

田村　功

わたしは里山が好きである。休日には、市の西部にある御霊櫻、高篠山や頼取山を散策することが多い。四月の初めは、残雪があり福寿草を踏みつつ、小鳥の澄んだ声を聞きながらの山遊びである。五月迄には、新緑の芽吹きが山全体を覆い、点在する山桜の花が迎えてくれ、四季折々の山容が心を和ませてくれます。十年程前の勤務地、新地町では電力会社が里山づくりを試み、現在では新興の森となって楽しませてくれます。発電所の一角に「わくわくランド」を作りエネルギー・火力発電の仕組みを学べるように、また、地域の憩いの場として利用できるように造られましたが、発電所敷地の周囲に新しい森・里山があります。この里山の特徴は樹木にあります。山から採ってきて移植したのでなく、周辺地域にある木々と同じものを苗木から育てて植樹したのです。わたしが初めて訪れた時には五十センチ程でしたが、昨年行ったら五メートル位に成長していたことに驚き、新しい森の誕生と思わずにはいられない感動を覚えました。

新しい森・里山

かつて当時の文部省主催の研修会に参加した折に、様々な分野で活躍されている方々の講演を受講しましたが、そのうちの一人に宮脇昭氏（現在横浜国立大名誉教授）がおりました。宮脇氏はその講演の中で、里山のそれぞれの地域で果たしている存在感、重要性を力説されたことが強く印象に残りました。それ以来、改めて身近な山を見るようになりました。建築材などの造林も必要ですが、そこにある樹木を植えて自然を再生することも必要なのではないかと思います。新地町の新しい里山づくりの魅力は、自然を創り出すヒントかなと思いつつ里山遊びを楽しみたいと思います。

（入学事務部長）

カギのいらない防犯を

深谷　ともみ

「みなさんは、自宅にカギを掛けますか」

筆者

「はい」と答える人の方が現在は多いと思うが、私の住む地域ではカギを掛ける習慣はない。外出時や就寝前などに戸締り確認するなんてことは、したことがない。そのことで、不安を感じたことは一度もなく、また、実際に犯罪が起きたこともない。

なぜこのようなことが可能なのだろうか。それは、地域住民間のコミュニケーションがしっかり取れていることに尽きる。例えば、近所の人のことを名前はもちろんのこと、職業や年齢、どんな人でどんな車に乗っているのかまで知っている。ここまで地域住民が、お互いのことを知っていると、自然と不審な人が目立って来るのだ。こんなにも素晴らしい防犯対策があるだろうか。

現在は、近所付き合いが軽薄になり、隣に住んでいる人の顔や名前すら知らない人もいる。どんなに性能の良いカギや防犯システムを付けるよりも、人と人との繋がりが最強のカギであるのではないだろうか。

（大学人間生活学科四年）

挑戦

嶋貫　愛沙

一年前、何となく日々を過ごしていた私にとって「挑戦」という言葉は、無縁の言葉でした。

そんな私に、ある日突然、先生から生徒会の話があり、初めは自信がなく断り続けていましたが、何より大好きな学校のために、何か役に立てればと思い、「やります」と立候補しました。

それから毎日、立会演説会の準備や応援演説を誰にお願いしようかと悩んでいたところ、友人が「私がやるよ」と言ってくれました。その友の勇気に心打たれ、感謝の気持ちでいっぱいになり、親友として、その存在がますます大きなものとなりました。

筆者

そして、信任され生徒会役員になり、徐々に仕事にも慣れ、役員の大変さ、重要性を肌身で感じ、また役員間の信頼関係も生まれてきました。

この一年でたくさんのことに挑戦し、その度悩み苦しむことがありましたが、決して後悔だけはしなかったことに気付きました。

「挑戦」という言葉は、高校生活の中で自分を成長させる、私にとってとても大切な言葉となりました。残り少ない高校生活。これからも挑戦し続け、附属生であることを誇りに一日一日を大切にし、友達と笑顔で過ごしたいです。

（附属高等学校三年）

私の本棚

農村魚村文化協会編集

『日本の食生活全集五十巻』

農村漁村文化協会

都山女子大学食物栄養学科　准教授

平出　美穂子

一九八四年から九年間にわたって刊行されたこれらの全集は、日本の食生活を学ぶ私にとって貴重なパイプです。この全集の大きな特徴は、ただ単なる全国各地の郷土食や伝統食の紹介ではなく、大正末期から昭和初期にかけての庶民の食事のあり方がどのようなものであったかが、こと細かく記されていることです。暮しから食だけを抜粋したものでなく、地域ごとの多様な展開を試み、生きることと食べることの尊さを教えてくれる本です。具体的には、この全集には千種類以上の食材が取り上げられ、当時の主食、副菜が四季を通してどのようなものであったか、また年中行事ではどのような供え物をするのか、そして人は、生まれてから死ぬまでにいろいろな節目がありますが、これらの節目にお供えし食べる食べ物はなにか、由来及び作り方を含めて事細かに記されています。さらに病気予防、回復のために昔から民間療法として継承されてきた薬効のある素材はどのように利用され食されてきたのかなど、人から人へ大切に継承されてきた食の文化がその地域の方言を通して記されているため、そこからにじみ出てくる人々の暮しのあり方が手に取るように感じ取ることができ、読んでいるとそのぬくもりが伝わってきます。特に福島県の場合は会津・中通り・浜通りの三地方の食文化の違いが分かり、他の県と比較しながら楽しく読んでいただけることと思います。

生活診断室

シリーズ㊵

サイバー犯罪

都山女子大学短期大学部　講師

古山　幹雄

携帯電話からのアクセスを含めインターネットを日常的に利用している人はかなり多いと思います。インターネットは、情報の収集、交換、人との交流の場といったコミュニケーションや買物、資産運用等の経済活動にも非常に便利な機能を提供して、個人の生活の中に深く浸透してきています。

一方、インターネットを利用した犯罪も多数発生し、かつ巧妙になってきています。ネットワーク上の犯罪はサイバー犯罪（Cyber-crime）と呼ばれ、二〇〇一年十一月に日本を含む各国が署名した「欧州評議会サイバー犯罪に関する条約」で、不正アクセス、コンピュータ関連詐欺、児童ポルノ関連犯罪等の「情報技術を悪用した犯罪」を意味し、すでに国際的に定着した用語になっています。

警察庁によると平成十八年のサイバー犯罪の検挙率は四千四百二十五件で前年比四〇％増となっています。一方、相談件数は六万千四百六十七件と前年比二七％減少しています。とは言っても、単純なワンクリック請求に関するものが減少した為で、他の相談は横這い状況にあります。

犯行は組織化・高度化し、共犯者の募集、他人名義口座の募集、フィッシングによるID・パスワードの搾取等インターネットの特性を悪用したものが多く見受けられ十分に注意してインターネットを利用する必要があることが窺われます。また、何時、新たな手口の犯罪が現れるか分からない状況にあり、常に最新情報の収集と学習が必要な状況です。

情報源として「警察庁サイバー犯罪対策室」やNPOネットワークセキュリティ協会の「インターネット安全教室」等をご覧になることをお勧めします。

ようこそ郡山開成学園へ
新任教職員の方々のご紹介

大学

［新採用］

芳賀伸光（はがのぶみつ）　教授　東京大学大学院教育学研究科博士課程満期。教育学博士。筑波大学名誉教授。柔道七段。日本体育学会顧問会長。所属・人間生活学科

関口　誓（せきぐち）　講師　東京大学大学院農学系研究科博士課程修了。農学博士。米ワシントン大学微生物部門で医療関係に携わり、遺伝子等を研究。帰国後製薬会社勤務。所属・食物栄養学科

［期限付採用］

深作憲代（ふかさくのりよ）　講師　茨城県取手第二高等学校卒業。前社会福祉法人いずみ福祉会勤務。介護福祉士。社会福祉主事。介護支援専門員。所属・人間生活学科

中村真智子（なかむらまちこ）　助手　郡山女子大学家政学部食物栄養学科卒業。管理栄養士。栄養士。所属・食物栄養学科（学務担当）

［期限付採用］

滝田真子（たきたまこ）　講師　郡山女子大学短期大学部保育科卒業。前郡山市保健福祉部参事兼児童家庭課長。保母。幼稚園教諭資格。所属・幼児教育学科

山口裕貴（やまぐちゆうき）　講師　早稲田大学大学院教育学研究科博士課程満期退学。前早稲田大学、立正大学非常勤講師。所属・幼児教育学科

阿部俊夫（あべとしお）　講師　早稲田大学大学院文学研究科修士課程修了。福島県文化センターにて遺跡調査課文化財主査、歴史資料課長を歴任。学芸員。所属・文化学科

短期大学部

［新採用］

［本採用］

石川雅子（いしかわまさこ）　助手　郡山女子大学家政学部食物栄養学科卒業。期限付副手（十四年度から）。管理栄養士・栄養士・毒物劇物取扱責任者資格。所属・家政学科食物栄養専攻（学務担当）

［期限付採用］

齋藤朋子（さいとうともこ）　助手　郡山女子大学短期大学部保育科卒業。幼稚園教諭免許・保育士。所属・幼児教育学科（学務担当）

附属高等学校

［新採用］

八代きぬ子（やしろきぬこ）　教諭　郡山女子大学家政学部食物栄養学科卒業。前県立あさか開成高校講師。栄養士。担当・食物、家庭

［期限付採用］

坪井　研（つぼいけん）　講師　金沢大学文学部国文科卒業。前県立長沼高校常勤講師。担当・国語

平山雅浩（ひらやままさひろ）　講師　武蔵野音楽大学音楽部音楽教育科卒業。前県立福多方商業高校講師。担当・音楽

澤江貴雄（さわえたかお）　講師　日本大学大学院工学研究科情報工学専攻修了。前日本大学東北高校非常勤講師。担当・情報、数学

附属幼稚園

［期限付採用］

遠倉希望（とくらのぞみ）　教諭　郡山女子大学短期大学部保育科卒業。幼稚園教諭免許・保育士。

家庭寮

［本採用］

若林里美（わかばやしさとみ）　助手　郡山女子大学家政学部人間生活学科卒業。期限付副手（十五年度から）。担当・学生生活

事務局

［新採用］

宮本　仁（みやもとじん）　職員　国學院大學文学部神道学科卒業。前放送大学福島学習センター勤務、神職（明神）・福島神社庁祭式助教。所属・総務部秘書課

NEWS 学園ニュース

KGC音楽研究会 学園創立六十周年記念演奏会

KGC音楽研究会は本学園に勤務する専任、非常勤音楽関係教職員で構成され、年一回音楽の各専門分野の第一人者をお招きして講演会や演奏講座等を企画、実施し教職員の勉強の場としている。

平成十八年度は学園創立六十周年をお祝いし会員による演奏会を十二月十六日建学記念講堂で開催した。ピアノ独奏、二台のピアノ、声楽、作品発表の九つのプログラムを披露した。会場には学園関係者はもとより、市内の音楽愛好者が多数訪れ、教職員の見事な演奏に聞き入っていた。

熱唱をこらした恒例コンサート

ふるさと「鍋」コンテストで大賞
―高校・食物科―

二月十八日、郡山市で開かれた"ふくしまうまいものフェスタ2007"のメイン行事「わが家のオリジナル鍋コンテスト」で本校食物科三年鈴木美香さんの作品が大賞に輝いた。作品名は「かくれんぼう鍋」。その名の通り郡山特産の「あさか米」をつぶしてきりたんぽ風にし、豆腐のつみれや鶏団子の中にチーズ、エビ、ウズラ卵などのさまざまな具材が隠れている夢のある鍋で、ユズの風味がさらに味を引き立てている。見た目や色合いがきれいで審査員から絶賛を得た。

平成十八年度で退職された方々

［第一定年］

▲短期大学部／高島守夫講師▲高校／大塚キヨ副校長・鈴木民雄主席主事・佐藤重孝教諭▲幼稚園／遠藤良子主任▲事務局／増子幸吉庶務課長

［第一定年］

▲大学／三瓶タミ子助教授

［依願］

▲大学／小野寺潤子教授▲短期大学部／三國隆子講師▲高校／本多真知子教諭・高橋利道教諭▲幼稚園／三浦恵子教諭

［福田期間満了］

▲大学／依田敏行教授▲短期大学部／森田栄子教授（附属幼稚園園長）・佐藤智美副手▲高校／加茂明子講師▲事務局／小針貴広職員

（三月三十一日）

■十九年度に再採用された方々

▲大学／三瓶タミ子准教授▲短期大学部／高島守夫（非常勤講師）▲高校／大塚キヨ生活相談主任・鈴木民雄非常勤講師▲幼稚園／遠藤良子副園長代行▲事務局／増子幸吉総務部庶務課長

（四月一日）

◆所属変更

▲大学／食物栄養学科鈴木利治教授（短大・家政科相談専攻）

（九月一日）

▲事務局／経理部経理係佐藤治平（高校事務室・高校事務室事務係佐藤利枝子（経理部）

（四月一日）

◆人事

▲図書館／館長山田幸二（兼）▲高校／副校長平野とみ子（教務部長）・総務部長鈴木正（進路指導部長）・生徒指導部長安斎彰夫（管理係部長）・情報係部長佐藤敏夫・教務部長小倉久美子（生徒指導部長）・進路指導部長西牧成子

（四月一日）

◆昇格

▲大学／熊田伸子講師（助子）

オリジナルラーメンコンテスト 東日本大会で優勝
―高校・食物科―

「インスタントラーメンオリジナル料理コンテスト東日本大会」が日本即席食品工業協会主催で二月十一日に東京で開かれ、現在食物科二年の坂井絢奈さんが見事優勝した。

インスタントラーメンを美味しく健康的に食べられるアイディアメニューを募る料理コンテストで参加資格は高校、短大、大学、専門学校に所属し、栄養士や調理師を志す生徒や学生。今回は全国から千百十四点の応募があり坂井さんの作品「福島の春"雪うさぎ"」は決勝まで残った。山芋と麺、エビ、ゴボウなどを混ぜたもので兎をかたどり、スープに卵白を加えて雪を表現したホッとする作品。審査員に「美味しくて夢のある作品」と高く評価され栄冠を手にした。なお、このコンテストでは本短大食物栄養専攻大森彩乃さんが第五位、同石田多恵さんが入賞している。

作品「福島の春"雪うさぎ"」

表彰式で審査員の田崎真也さんが講評

三年間の成果をステージで
―高校・音楽科―

今年度の音楽科卒業演奏会が二月十日建学記念講堂大ホールで開催された。個性あふれる卒業生達が各々ピアノ、クラリネット、声楽と、専攻した内容を精一杯表現した。同窓生、保護者、先生方が今後の活躍に期待しながら演奏を見守った。最後に音楽科全員で合唱演奏し、校歌が流れる中、卒業生一人ひとりに後輩から花束が贈られる演出に涙ぐむ卒業生もいた。

三年間の学習成果を展示
―高校・美術科―

第三十二回卒業作品展が昨年十二月、建学記念講堂ギャラリーにて開催された。美術科三年生二十四名は日本画、油画、ビジュアル分野で八十二点の作品を展示発表した。来場者は若さあふれる高校生の作品群に驚きの眼差しで見入っていた。

調理技術実る卒業作品発表会
―高校・食物科―

食物科三年生三十九名による卒業作品発表会が昨年十二月五日、六日の二日間開催された。

個性と感性が生かされた芸術品のような美しい料理の数々や著置きなどの小物も展示され、会場を訪れた人達に感動を与えていた。

「調理師資格取得」のために身につけてきた三年間の調理技術が見事に実り、生徒達の成長の様子が強く感じられた発表会であった。

お悔やみ申し上げます

片岡義和氏（元郡山女子大学講師）

内臓疾患のため四月二十四日死去。七十一歳。

ご冥福をお祈りいたします。

祝・学園創立六十周年　第百五十五回芸術鑑賞講座

ニコライ・トカレフ ピアノリサイタル

学園創立六十周年を祝う第百五十五回芸術鑑賞講座はロシアの貴公子、ニコライ・トカレフのピアノリサイタル。日本では一九九七年デビュー以来、公演回数が百回を超えたという親日派。

十二月十二日、建学記念講堂大ホールでのコンサートはモーツァルトピアノソナタ長調K533、シューベルト「楽興の時から」、ショパンの練習曲「別れの曲」「木枯らし」、リスト「ラ・カンパネラ」、チャイコフスキー「くるみ割り人形」等九曲を休憩なしで一気に演奏した。

時には優しく、時に激しく響く旋律は鮮烈。溜め息から感動へと心をゆさぶる演奏に学生生徒から惜しみない拍手が送られた。

ノンストップ演奏に客席からため息が…

学生手作りの「劇とあそびのつどい」

短大・保育科

フィナーレは全員が舞台に

「第二十三回劇とあそびのつどい」が二月三日、建学記念講堂大ホールで開催された。

今回は学園創立六十周年を記念する催しだが、科名が十九年度から幼児教育学科と改称されるため短大・保育科としては最後となるイベント。地域の人達を招待した。

保育士や幼稚園教諭を目指す卒業間近な学生約百五十名が企画・立案・案内・受付・運営・演出・出演という手作りの催事。

舞台では音楽と語りの「葉っぱのたび」、人形劇「ブレーメンの音楽隊」、オペレッタ「森のおくりもの」を披露。一方、ギャラリーに設けられた「あそびコーナー」は玩具やゲーム、折り紙等で子ども達が学生と一緒に笑ったり跳ねたり。学習研究の成果を示した。

ぼくとわたしのはっぴょうかい

附属幼稚園

二月十四日から三日間、「ぼくとわたしのはっぴょうかい」が園内ホールで開催された。年中組はタンブリンなどの楽器に親しみを持ちながらリズムに合わせて演奏したり、可愛らしいダンスを披露。年長組は、お話の内容を自分たちで考え、その演技に必要な小道具作りも一生懸命で、ステージの上では堂々とした発表ぶり。年中、年長組共に子ども自身の力が十分に発揮された発表会であった。

懸命におどる園児ら

卒業研究を自主製本

高校・人文学系コース　国語・ことば系

附属高校の人文学系コース／国語・ことば系で学んだ二十二名の卒業生がその学習内容をまとめた。自主的に企画、研究文は各人がパソコンを駆使してまとめあげた。「私の好きな詩・詩の創作」「福島出身の作家研究」「全国方言版昔話」「東北の伝説」など貴重ないわば手作りの論文集。それは「総合演習」卒業研究Ⅰ・Ⅱとして製本され、学校に寄贈された。自分たちの学習の軌跡をまとめ、後輩に先輩の足跡を残す卒業記念となった。

立派に仕上がった「卒業研究」集

本学所蔵　紙上美術展52

「第五十二回卒園記念屏風」

附属幼稚園の平成十八年度卒園児六十一名が描き残した記念の絵屏風三平双が卒園式を飾りました。園生活の思い出がいっぱいつまった作品です。

これで幼稚園に保管されている記念屏風は合計百五十六半双となりました。

「ようちえんのおもいでとゆめ」　もみじ組

「ほんとうのうちゅうみたい」
「うめづけしたり　あそんだり　たのしかったね」
「ぶらんこにのって　そらにつくくらい　あしをあげたよね」
「ウルトラマンタロウは怪獣とたたかっているんだ」
「ユーホーもあるね　ユーホーにのってうちゅうをしらべているの」
「にじのうえをあるいて　うちゅうにいきたいなぁ」

「たのしかった　ようちえん」　まつ組

「なわとびで　たくさんとべたよ」
「プランコで　おそらまでいけそうだね」
「えんそくたのしかったね　またいきたいな」
「どじょうはつかまえるのがたいへんだったね　つるつるすべるんだもん」
「サンタさんがプレゼントをとどけにきたの　わたしはおもいでのゆめをみているの」
「くるまにのってドライブしているんだ」
「えきでちゃんと　とまってね」
「わたしがあそんでいるところ　ようちえんたのしかったね！」

「みんな　なかよし」　やなぎ組

「わたしとおともだちが　てをつないで　クリスマスのパーティーにおでかけするの」
「うちゅうじんもパーティーにいきたいのかもしれないね」
「ぼくのくるまは　うちゅうにドライブしてるんだよ」
「わたしは　おほしさまをつかまえて　たべようとしているんだ」
「ぼくは　いろいろなどうぶつたちと　なかよくしてるんだ」
「わたしは　ケンカはやめてっていっているの！」
「だから　みんなは　なかよしになって　わらってるんだね！」

木もれ陽

銃器による殺戮の報道に私たちは悲しみと憤り、そしてある決意を抱かずにはおれない。その決意とはかつて私たちが感じていた高邁な志を再び想い起こすことに他ならない。

「古今和歌集」の「序」はこう語る。和歌は人間の心を種として生い茂ったとりどりの言葉の葉である。この現世に生きている人間は様々な出来事に関するものなので、その折々の心情を言葉にする。花に鳴く鶯、水にすむ蛙の声を聞けば、生きとし生けるものの声を聞けば、どうして歌にしないでいられようか。天と地を守る神々や精霊たちをも感慨にふけらせ、人間の仲を和らげ心を慰めるものは、和歌即ち人間の言葉なのだ、と。これは、言葉こそが人間の心を核として自然を歌い上げるという「人間主義」宣言となっている。

米国の日本文学者D・キーン氏はこう評している。「古今和歌集」の著者紀貫之は詩には超自然的な存在を動かす力があると説いていて、これは欧米で超自然的な存在がその霊感に動かされた詩人の口を通して語るのだと信じられてきたことの反対である。日本の詩人はかつてその仕事の上で神々に助けを求めなかった。詩を書くことは人間の力なのであると考えられていた、と。

この「人間本位」を今日強く感じ取る必要がある。これは本学の「人間守護」理論に通じる感受性でもある。（均）